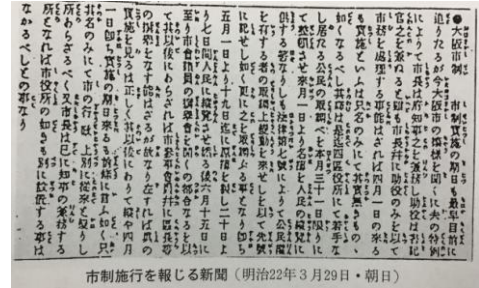


『大阪市政百年の歩み』から

平成元年（1989）に刊行された『大阪市政百年の歩み』（大阪市総務局企画編集）を手にした。まずは大阪市制発足から。

明治22年4月1日、大阪市制が発足した。この日大阪地方はあいにくの雨模様、春とはいえ肌寒い1日だったが、淀川べり川崎の堤の桜は、チラホラ咲きそめていた。提灯行列でわいた憲法発布の日（同年2月11日）に比べると、この日の町の表情は比較的冷静であった。大阪府東・西・南・北4区の区民47万2千人が大阪市民になった。



法律第1号「市制町村制」に基づく内務省告示によって、この日同時に市制を施行したのは京都、神戸、横浜、姫路、堺など31市、その後東京、名古屋などが続き、この年市制が施行されたのは全国で39市となった。当時の大阪市の面積は、4区合わせて15.27平方キ、現在に比べ面積は約14分の1、人口は約6分の1にすぎなかった。

「むすび」から一昭和から平成へと新しい時代を迎えた本年、大阪市は発足以来百周年を迎えた。明治22年4月1日に誕生した大阪市は、明治期を通じ、市勢拡大のなかで近代都市建設への模索を続け、大正から昭和戦前期にかけて将来計画を確立、大大阪の成立をみたが、昭和20年の戦災で灰塵に帰した。戦後は、市街地復旧につとめ、ジェーン台風、公害問題、モータリゼーションの嵐をくぐり抜けながら、都市機能の回復をめざし、道路・交通網等の基盤整備ならびに住宅建設に全力をあげた。昭和45年の万国博で大阪の国際化は大きく進展したが、48年のオイルショックにより、経済優先の時代が終わりを告げ、量から質への時代がはじまった。



一貫してより豊かな市民生活を中心に施策を遂行してきた大阪市は、昭和53年3月、①快適な生活ができるまち、②広域的な役割を果たすまち、③新しい文化をつくるまちの3本柱を掲げる大阪市総合計画を策定、さらに昭和58年8月には市制百周年記念事業の基本構想を策定し、21世紀を展望する国際都市をめざして、多彩なイベントや施設整備を進めつつある。

そして、大阪市制百周年から31年、2020年の大阪市は存亡の危機にある。11月1日には、大阪市廃止・特別区設置の是非を問う住民投票が強行される予定だ。コロナ禍の混乱したなかで。131年の歴史をもつ大阪市を存続、発展させるため奮闘努力したい。

（2020年9月26日）